



学校だより



令和6年1月9日

1月号

調布市立第一小学校

校長 樋川 宣登志

<http://www.chofu-schools.jp/chofu-1sho/>

TEL042(481)7636

子どもたちの成長を祈って

校長 樋川 宣登志

2024年。新しい年が始まりました。新年、朝の静かで冷たい空気にはいつも気持ちが引きしまり、幸せな一年を願わずにいられません。しかし、この年明けは、能登の大地震、羽田の空港事故と思ってもよらぬ出来事が続きました。被災者の皆様にお見舞い申し上げます。

そして、あらためて、この新しい年が皆様にとって充実した年となり、ご家族の笑顔があふれる一年となることを心よりお祈り申し上げます。また、世界の子どもたちが、どうぞ安心して暮らせますように。

本年も、教職員一同、子どもたちが笑顔で学校生活を送ることができるよう力を尽くしてまいります。学校の教育活動へのご理解・ご協力を引き続きお願い申し上げます。

さて、先月、PISA（国際学習到達度調査）の結果が発表されました(*1)。この調査では、教科の知識量ではなく、思考力や問題解決能力、応用力などが問われます(*2)。2000年からほぼ3年に1回実施され、2003年調査結果(*3)が急落し「PISA ショック」と呼ばれ、「ゆとり教育」見直しのきっかけとなった調査です。

今回、日本の成績は、「読解力」3位、「数学的リテラシー」5位、「科学的リテラシー」2位と、世界屈指のレベルとなりました。「ショック」後の日本の取組が、一定の成果を生んだということが出来ます。

一方、課題も示されました。意識調査のうちの「学習に対する自発性」についての回答結果です。

質問「再び学校が休校した場合、以下のことを行う自信はありますか。」に対し、日本の生徒が、「自信がない」と答えた割合が次です。

【自分で学校の勉強をこなす】 58.4%

【言われなくても学校の勉強にじっくり取り組む】 63.5%

【学校の勉強をするやる気を出す】 66.1%

など、8項目中7項目で、半数以上の生徒が「自信がない」と回答しています。

これらから算出した自発性を示すスコアは、OECD加盟国37か国のうち34位でした。日本の子どもたちは、思考力や応用力は世界トップレベルなのに、自分で自分の学びをコントロールする自信が低いのです。

非常時に限らず、未来を生きていく子どもたちには自発的・自律的に学び、自ら育つ力が必要です。

自分の課題を掲げる、自分で計画を立てる、自分で進めて修正する、人と協力して問題を解決する。そのような力の萌芽を、小学校のあいだに身に付けてほしいです。

そのために、わたしたち大人は、学校でも家庭でも、子どもたちの興味関心を大切に、達成感・充実感をともに喜び、子どもたちが自分の可能性を信じられるように寄り添っていきたいです。

*1 今回は、22年。OECD 非加盟国を含む 81 の国・地域の約 69 万人が参加。日本では 183 校の高校 1 年生約 6000 人が受けた。

*2 「読解力」「数学的リテラシー」「科学的リテラシー」の3分野。

*3 2003年「読解力」14位、2006年、同15位。